

地方都市における休日の外出行動への影響要因に関する研究

秋田大学 学生会員 ○横山 悠人
秋田大学大学院 正 会 員 鈴木 雄
秋田大学大学院 正 会 員 日野 智

1. はじめに

外出は生活を充実させると同時に、地域経済の発展、活性化にも貢献するものと考えられる。しかしながら、2015 年度「全国都市交通特性調査」では、家から外出する人の割合は、平日 80.9%、休日 59.9% となり、この調査を実施した 1987 年からいづれも過去最低を記録しており、外出率は減少している。さらに、消費活動も減少しており、都市や地域の活力衰退の影響が懸念される。対策として、大型商業店の誘致やアーケードの設置などハード面での整備が挙げられるが、財政上の面などからの制約が存在する。そこで、ソフト面の対策として様々なイベントの開催による集客が取り組まれている。

本研究では、外出行動を促す要因としてのイベントに着目した。そして、意識調査から、イベントと外出行動との関係やイベントへの参加に影響する要因の把握を目的とした。

2. 調査の概要

本研究では秋田市の住宅地 3 地区を対象に、投函配布・郵送回収方式で意識調査を行った。調査票は、休日の外出行動の調査と休日のイベント参加状況の調査の 2 種類を用意した。休日の外出行動調査は合計 131 部を回収し、休日のイベント参加調査は 105 部を回収した。調査内容は、外出に対する意識や実際の外出行動の要因、イベント参加に関する意識や経験、イベントの参加要因などである。

3. 外出が地域住民に与える影響

外出が生活に及ぼす影響を把握するため、普段の生活に対する満足度を質問している(図-1)。各項目の満足度を見ると、町内会活動や地域の祭りへの参加以外、おおむね全ての項目において満足度が高い。そこで、生活全体の満足度に影響を及ぼしている要因を把握するため、数量化理論Ⅱ類による分析を行った。レンジの値を見ると、「趣味・娯楽による外出

をする回数」、「家族以外の人との会話の回数」の値が大きく、これらの項目が総合満足度に影響を与えていることがわかる。すなわち、生活満足度を高めるためには、趣味・娯楽などの外出を行い、人と関わることが重要と推測される。

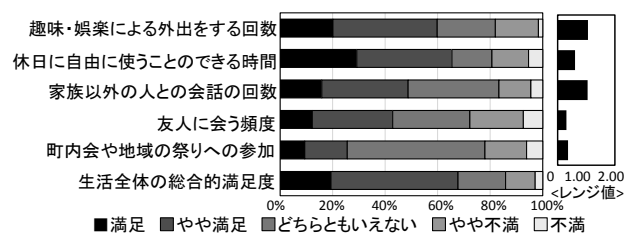


図-1 地域住民の生活満足度と影響する要因

また、外出に対する意識や経験を図-2 に示す。約 50%の被験者が、外出先が固定されていると回答している。しかしながら、1 回の外出で複数の行きたい場所を訪問している被験者も少なくない。さらに、冬期では外出が困難になること、セールなどの情報が外出を促す可能性があることが示された。すなわち、現状では外出をした際に複数の場所を訪問しているが、外出先がいつも行っている場所になっている。そのため、魅力ある情報などを伝えていくことが、外出に影響を及ぼすと推測できる。

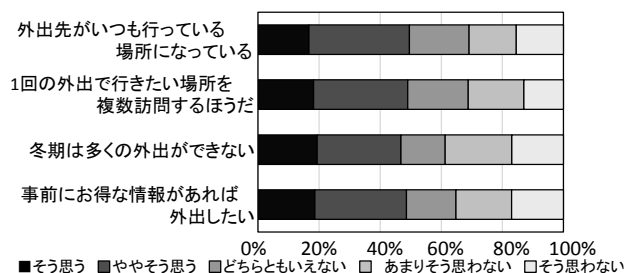


図-2 外出に対する意識、経験

4. イベントの参加と休日の外出頻度

本研究では、外出を促す手段としてのイベントに着目し、秋田市内で行われているイベントが外出に及ぼす影響について分析をした。秋田市内のイベントの参加頻度と外出頻度の関係を図-3 に、イベントに参加した際の経験を図-4 に示す。イベントの参加

キーワード：外出行動、意識調査分析、イベント、外出要因

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL(018)-889-2359 FAX(018)-889-2975

頻度が多い被験者ほど、外出の頻度も高い。すなわち、イベントの参加の機会を増やすことが外出回数を増やすことにつながると推測できる。

しかし、イベントに参加した際の経験をみると、約半数の被験者が情報を事前に得られていないと感じており、情報の伝達不足でイベントに参加したかったが行けなかった被験者も半数近く存在している。また、情報を得ているがイベント当日には忘れている被験者もあり、関心を持ってもらうだけではなく、記憶に定着するようなイベント情報の提供が重要である。

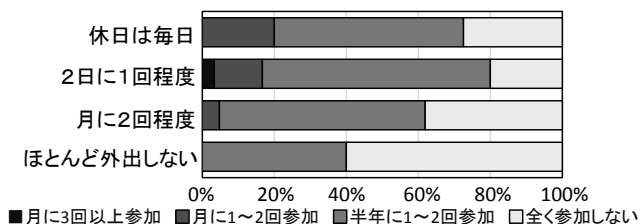


図-3 休日の外出頻度とイベントの参加頻度

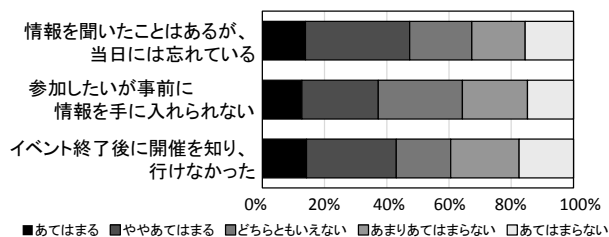


図-4 イベントの情報とイベントへの参加

5. イベント情報の提供とイベントへの参加

(1) イベントに参加・不参加に関する要因

イベント参加状況の調査では、参加したかったが参加できなかったイベントの参加できなかった理由を尋ねた（図-5）。「急遽、仕事などの予定が入った」が最も多く、「イベントが終わった後に情報を知った」、「イベントの情報を入手するのが遅すぎた」がそれに次いでいる。急に予定が入ったために参加できなかった人に参加を促すのは難しい。しかし、イベント情報の伝達不足で参加できない被験者が存在していた。そのため、イベントに関する情報の提供がイベント参加に大きく影響を及ぼすと考えられる。

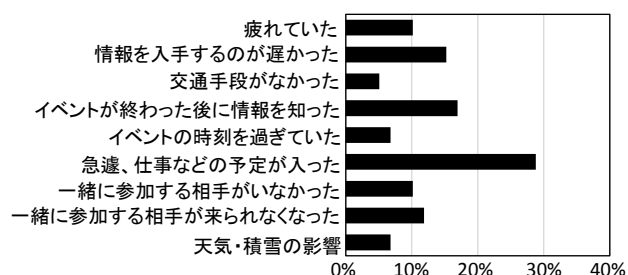


図-5 参加したかったが参加できなかった理由

(2) イベントの情報と参加

秋田市内の参加したイベントの情報と参加していないイベントの情報の入手日を図-6に、どのように情報を入手したかを図-7に示す。参加したイベントと参加していないイベントの情報の入手日を比較すると、「1ヶ月以上前」から情報を入手しているかどうか、イベントの参加に影響を与えていることが推測される。また、参加したイベントと参加していないイベントの情報入手先を比較すると、情報の発信元がイベント参加に及ぼす影響は少ないと考えられる。共通して「新聞・チラシ」、「テレビ・ラジオ」の割合が高く、これらは意図しなくても情報に触れるものである。さらに「新聞・チラシ」に関しては紙媒体として、手元に残せるためにイベントへの参加や認知につながっていると推測できる。一方、ホームページは非常に低いことから、未知のイベントを自分で調べて情報を入手している被験者は少ない。すなわち、ウェブでイベント情報を開示していくことも重要だが、イベントを知るきっかけとしては十分ではなく、紙媒体などで情報を与えることがイベントへの参加を促すことになると考えられる。

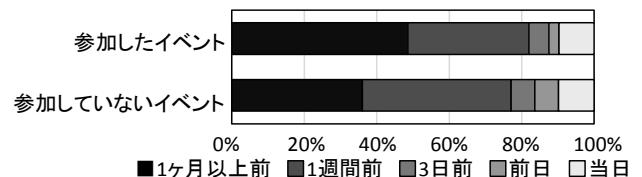


図-6 イベントの情報入手日

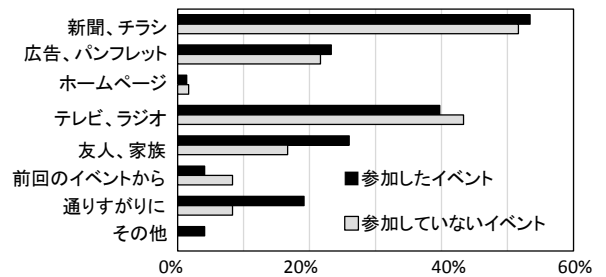


図-7 イベントの情報発信

6. おわりに

調査の結果から、趣味・娯楽の外出が総合満足度に大きな影響を与えていることが明らかとなった。趣味・娯楽の外出の一つとして本研究ではイベントに着目したが、イベントへの参加が外出行動に影響があることも明らかになった。また、現在の情報提供では不十分なイベントもあることがわかった。すなわち、イベントの情報は1ヶ月以上前から新聞・チラシなどで複数回発信していくことが参加を促し、外出回数の増加につながると考えられる。